

2015年度 自己点検・評価【神学部】

C票

<目標、行動計画>策定シート

作成日:2016年 2月19日

責任者	神学部長	作成部局	神学部
-----	------	------	-----

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

国際社会に必要な基礎学力の錬成

(狙い内容)

キリスト教を中心として、宗教的教養を養い、国際社会と対話する能力を修得する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

専門基礎科目群(必修科目)ならびに、宗教学関連科目を充実させ、キリスト教を切り口とした宗教リテラシー教育の充実を図る。また、変化を続ける国際社会へ対応するため海外文化を体験する機会提供の充実を図る。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

専門基礎科目群(必修科目)は内容や到達目標は担当する教員によって、若干の変動が生じている。まずは、CM(カリキュラムマップ)の精査を図り、より具体的な到達目標を明示する必要がある。また、国際社会へ対応するため、海外文化を体験する(語学研修・留学など)機会を提供することについても、例年3名前後の実績で推移していることから、課題となっている。よって、まずは下記の行動計画を実行し、1.の達成を図る。

3. 達成度評価

評価指標	下記の行動計画における取り組み状況	評価尺度	A: 行動計画の取組みの実施と評価・検証が行われている B: 現状の分析とシラバスの整備が完了している C: 行動計画実行に向けた方針の確定 D: 行動計画の立案
------	-------------------	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
宗教学関連科目の担当者の検討	■行動計画の立案 ・CMの課題精査・再整備 ・留学における単位認定方針の明示	・行動計画実行に向けた方針の確定 ・CMをもとにしたシラバス内容の検証	行動計画の取組みの実施と評価	行動計画の取組みの実施と評価	行動計画の取組みの実施と評価	行動計画の取組みの実施と評価

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

少人数による教育

(狙い内容)

少人数の授業によって、学問研究の基礎を学び、みずから社会の課題や問題を発見することのできる積極的な学習環境を構築する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

更なる少人数による細やかな教育・研究指導を受ける機会を増やすことで、授業内容の理解力向上を目指し、学部内の教育を充実させることを目標とする。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

現在、2年次に「基礎演習C・D」を2クラス(1クラス15名前後)開講している。さらに小さなクラス(1クラス7~8名程度)にすることで、系統的な指導を目指したい。また、言語教育科目(英語科目)においては、1年次秋学期・2年次春学期はクラス分けを実施していない(計30名程度)。更なる少人数化を実施し、内容理解度の向上を図る必要がある。

3. 達成度評価

評価指標	少人数教育の強化科目を選定する。シラバスに『少人数実施』と明示し、学生へ意図を伝達したうえで検証を行う。	評価尺度	A: 少人数教育の実施・検証が行われている B: 少人数教育を行う教科科目の開講 C: 少人数教育を行う教科科目の選定 D: 現状と変更なし
------	--	------	---

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
・2年次に「基礎演習」2クラス開講 ・4年次に「特殊研究演習」	2年次の「文献講読」4クラス開講。 1・2年次のすべての英語クラスを2クラス開講する。	3年次からの「研究演習A・B」を開講する。	4年次からの「研究演習C・D」を開講する。	少人数教育の見直し	少人数教育の見直し	少人数教育の見直しと具体的な改善計画の策定

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

“Mastery for Service”を実践する社会人の育成

(狙い内容)

キリスト教ならびに宗教に関する総合的な基礎知識に裏打ちされ、しかも、現代の社会と人間に対する洞察力を持ち、明確な人権意識を持って、“Mastery for Service”を実践することのできる人材を育成する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

2015年度から開始されたディアコニア・プログラムやこのプログラムに関連したハンズオン・プログラムを充実させ、社会との関わりへの関心を高め、ディアコニア・プログラム修了者から社会福祉事業従事者・NPO活動従事者を輩出することを目標とする。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

2015年から開始されたディアコニア・プログラムを修了するためには3年が必要である。第1期生を教育すると共に、プログラム内容を振り返り、充実させていく必要がある。また、現在のところ、学部・大学内外においても本プログラムが十分に周知されているとは言えない。そのため、ディアコニア・プログラムの意義や成果を学部・大学内外に広めていかなければならない。

3. 達成度評価

評価指標	ディアコニア・プログラムの新規登録者数	評価尺度	A: 5名以上 B: 4名 C: 3名 D: 2名以下
------	---------------------	------	--------------------------------------

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
ディアコニア・プログラムの開始	ディアコニア・プログラムの新規登録者数: 3名	ディアコニア・プログラム修了者輩出	・ディアコニア・プログラムの振り返りと充実をはかる。 ディアコニア・プログラムの新規登録者数: 5名以上	ディアコニア・プログラムの新規登録者数: 5名以上	ディアコニア・プログラムの新規登録者数: 5名以上	ディアコニア・プログラムの新規登録者数: 5名以上

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)

専門的研究者の育成

(狙い内容)

キリスト教ならびに宗教に関する基礎知識を修得した上で、さらに専門的な研究に関心を持つ学生を育成する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

大学院との合併授業を充実させ、専門的な研究への関心を高めるとともに、卒業論文の執筆意欲を高めることを目標とする。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

現在、学部の専門的な研究として4年次に「特殊研究演習」が行われており、大学院との合併授業として開講されているのは3科目である。1年間の「特殊研究演習」の指導では短く、卒業論文の指導や執筆の時間的な余裕が少ない。また、卒業論文の執筆も卒業年次生のほぼ半数である。

3. 達成度評価

評価指標	独自の研究テーマと取り組む時間や高度な専門教育を受ける機会を増やし、大学院進学者数(他大学院を含む)を維持ならびに増加させる。	評価尺度	A: 8名以上 B: 5~7名 C: 3~4名 D: 3名未満
------	---	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
検討中	3名以上	4名以上	5名以上	6名以上	7名以上	8名以上